枕草子　二月つごもりごろに

①二月つごもりごろに、風いたう吹きて、空いみじう黒きに、
（の 下旬）（が とても）（吹い）（が ひどく）（黒い）（上に）【格助添加】

雪少しうちちらりと降っているほど、
（が）（時に）

②黒戸に主殿寮来て、「かうて候ふ。」と言へば、
（の役人）が（ごめんください）（言う ので）

③寄りたるに、「これ、公任の宰相殿の。」とて
（私が御簾に 近寄っ）（た ところ）（は）（お手紙です 言っ）（そこに の）

あるを見れば、
（見る と）

④懐紙に、少し春ある心地こそすれとあるは、
（が）（が するよ）（書いて の）

⑤げに今日のけしきにいとよう合ひたるを、
（本当に）（景色）（とても よく）（合っ ている）（が）【接助】

これが本はいかでかつくべからむと、思ひわづらひぬ。
（の 上の句）（どのように）（付けたら よい）（だろうか）（思い悩ん）（でしまった）

⑥「たれたれか。」と問へば、「それそれ。」と言ふ。
（殿上の間には どんな人が）（いらっしゃるのです）（訊く と）（あのひと、このひと 応える）

⑦みないとはづかしき中に、宰相の御いらへを、
（とても 立派な方々が）（いらっしゃる）（でも）（へ）（返事）

いかでかことなしびに言ひ出でむ
（どうして）（何事もないように）（言い出せる だろうか）（いや、言い出せない。）【副】

と、心一つに苦しきを、
（自分の心のままだけで）（苦しい ので）【格助】

⑧御前に御覧ぜさせむとすれど、
（中宮様）（ご覧に入れ）（よう する けれど）

上のおはしましてたり。
（帝 が）（いらっしゃっ）（お二人は お休みになっ）（ている）【尊 →帝】【尊 →帝・中宮】

⑨主殿寮は、「とく、とく。」と言ふ。
（の役人）　早く　早く　言う　（返事をしてくれ）

⑩げに、おそう さへ あら む は、いと とりどころ なけれ ば、
なるほど本当に　遅く　も　あった　としたら　全く　取り柄　が　ない　ので　（返答で作った上の句が下手で）その上
【添加】　【仮定】

⑪さはれ と て、空 寒 み 花に まがへ て散る雪に
どうともなれ　思っ　が　寒い　ので　見まがうばかりに　で　【原因】

と、わななくわななく 書き て 取らせて、いかに 思ふ らむ と、わびし。
（寒さや緊張で）震えながら　私が　書い　主殿寮の役人に　渡し　（今頃それを読んだ公任様が）どのように　思って　いるのか　思うと　せつない
【現在推量】

⑫これが の ことを聞か 評価　聞き　ばやと思ふ たい　思う に、そしら が　けなさ れ ている たら ならば
聞き　たくない　思っている　と　を、
聞か じ と おぼゆる

⑬「俊賢の宰相など、『なほ、内侍 に 奏し て なさ む。』と なむ、
が　やはり　（清少納言を）として　（帝に推薦することを）申し上げ　任命し　よう　【資格】　→帝

定め 給ひ し。」とばかり ぞ、
評定　なさっ　た　だけ　を　【体】

⑭左兵衛督の、中将 に おはせ し、語り 給ひ し。
（当時）で　として　いらっしゃっ　た　方が　お話　くださっ　た　【同格】　→中将　→中将